

ヘキサブROMシクロデカンの有害性の概要

分解性	蓄積性	人健康影響関連	動植物への影響関連
<p>【加水分解性】 環境中での重要な分解経路ではない (根拠:水溶解度が低く、有機炭素への吸着 性が高く、加水分解される官能基無し)</p> <p>【分解速度】 α-HBCDはβ及びγ-HBCDより分解が遅い</p> <p>【残留性】 ・α-HBCDはβ及びγ-HBCDより残留性が 高く、生物濃縮しやすい ・北極圏の最上位の捕食者において高濃度 で検出</p>	<p>【BCF(生物濃縮係数)】 ・フアッドヘッドミノー:18,100 ・ニジマス:13,085 ・水生生物の総PCB:18,100</p> <p>【log Kow】 実験値:5.625</p>	<p>【神経系への影響】 ・聴覚機能の減弱(閾値の上昇と反応の低下) BMDL <1 ~ 10mg/kg bw</p> <p>【生殖・発生への影響】 ・原始卵胞数の減少 NOAEL:10mg/kg/day</p> <p>・マウス出生仔、単回経口:行動影響あり NOAEL:0.9mg/kg/day ※1500ppm(100mg/kg bw/day相当)でも一過 性的変化しか現れなかつたとする報告も ある。</p> <p>・仔ラットの体重減少等 30~100 mg/kg/dayで影響あり</p> <p>・仔ラットの大腦皮質におけるoligodendroglial developmentの減弱、甲状腺重量の増加と 血清T3の減少等 NOAEL:100ppm (8~21mg/kg/day)</p> <p>【代謝・内分泌系への影響】 ・ラット代謝機能(脂質、テロステロン、エスト ロゲン等)の変化 3~100mg/kg bw ・甲状腺ホルモンへの影響が懸念されるが、 試験により結果はまちまち(影響なし~血清 T4の減少)</p>	<p>【鳥類への繁殖毒性】 ・ニホンウズラ NOEC:5ppm(6週試験) (0.7mg/kg/day)</p> <p>・アメリカカウウガンボウ 0.8ppmの餌中投与により、求愛行動、産 卵期の早期化、雛の成長速度の遅れが 見られた。</p> <p>※POPRC8にて北野委員から御紹介、 POPs条約webサイトにも掲載されてい る情報</p> <p>・ニホンウズラ NOEC:125ppm(20週試験) (16mg/kg/day)</p> <p>NOEC:<1ppm(6週試験) (0.14mg/kg/day)</p> <p>1.525ppmで影響が見られた工 種ポイントがあったが、濃度相 関性がなくNOECを設定できな かった。(6週試験、α-HBCDのみ)</p>